

梶井良左衛門

江原真一郎

平成二十四年度

松竹特別公演

お力

初春

はつぼみ

山本周五郎
石井ふく子

原作
脚本
演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

美木
良介

梶井半之助

どの枝も
初めて花を咲かせるような新しさで、
生き生きと――。



藤田
朋子

お民



甲斐
京子

かね

森田久馬
井上
恭太

山本
陽子

はま



この梅には、また、
つぼみがふくらみかけています。

山本周五郎
石井ふく子

原作
脚本
演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原作

脚本

演出

製作
二幕
松竹

橋田壽賀子

原

平成二十四年度 松竹特別公演

製作
松竹

初 恋

二幕

山本周五郎 原作
橋田壽賀子 脚本
石井ふく子 演出

はつっぽみ

同 制 作 同 制 作
盛田光紀 中嶋正留 北内隆志 佐良直美 森本義
出 补 明術 樂果 級音 照美 演
衣裳デザイン 邦樂指導 舞台監督 小泉清子 古山昌克 竹田喜三代 片岡正俊 竹田原亞紀 大迫辰己

志摩のくには二見浦の料亭「ふじむら」で茶屋女として奉公するお民（藤田朋子）は貧しい境遇に生まれ育つ。お民の心の支えは「ふじむら」の客として通う、藩士・梶井半之助（美木良介）だった。所詮は住む世界が違うと、恋心を抱きながらも夫婦になるのはかなわぬこと諦めていたお民。やがてお民は半之助の子を身ごもつてしまう。

「ふじむら」の女将・お力（芦川よしみ）はお民に子供

のことを半之助に打ち明けるように説得する。そこへ半之助が同僚の森田久馬を斬ってしまったと飛び込んで来る。森田にお民との仲を諭され対立したというのだ。同僚に刃を向け怪我をさせてしまった事を後悔した半之助は、己を叩き直すために江戸を出る決意を固める。お民は妊娠を告げられないまま、半之助は江戸を出立してしまう。

恒例となりました松竹の八月九月の全国公演、平成二十四年度は山本陽子を中心に、藤田朋子・芦川よしみという女優陣、男優陣と致しましては、江原真二郎・美木良介という松竹特別公演初お目見えの豪華メンバーが揃いました。

演目は昭和の文豪であり、いまなお多くの読者に愛される山本周五郎の名作「初薈」をお届けします。貧しい境遇で育ったお民が梶井はまを始め周囲の人々の温かさに触れ、成長して行く姿を描いた心温まる物語です。

脚本は橋田壽賀子、演出に石井ふく子という幾多の傑作を生み出した名コンビが「優しさ」と「思いやり」そして人間同士の「信頼」をテーマに、老若男女を問わずじっくりとご鑑賞頂ける傑作舞台を作り上げます。



りを注いでいるように見えた……。

【あらすじ】